



サメガレイ (太平洋北部) ①

サメガレイは北海道および東北地方の太平洋岸沖に広く生息し、本評価群はこのうち青森県から千葉県沖に分布する群である。

● 2022年の指標値

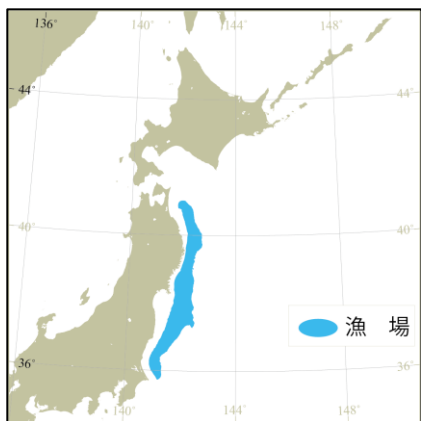


図1 分布図

水深150~1,000mの砂泥底に分布する。主に沖合底びき網漁業（以下、「沖底」）によって青森県から茨城県沖で漁獲され、千葉県沖でも漁獲されることがある。

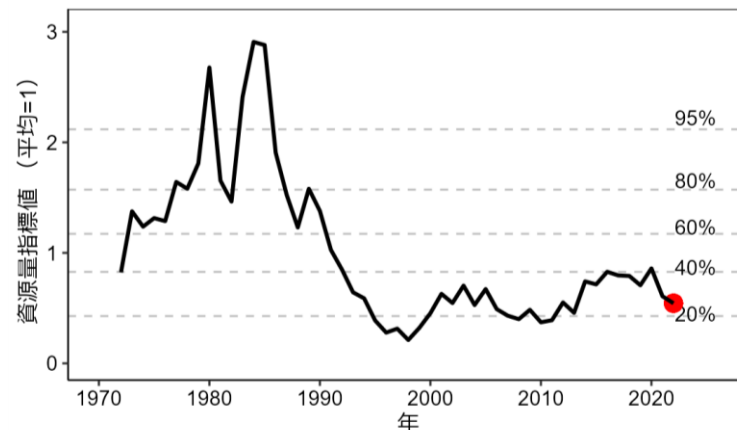


図3 資源量指標値の推移

ノミナルCPUEは水深の他、操業月や海域の影響も含む。これらの影響を除去（標準化）した金華山海区以南のCPUEを算出したところ、1970~1980年代は低く、近年のCPUEは高く補正された。このように資源変動以外の影響を除去した標準化CPUEを資源量指標値として採用した。

標準化CPUEは1973~1990年は平均値比1.2以上で推移していたが、1992年以降は平均値以下となった。2011年以降は回復がみられたものの、2022年は前年より減少して0.54であった。

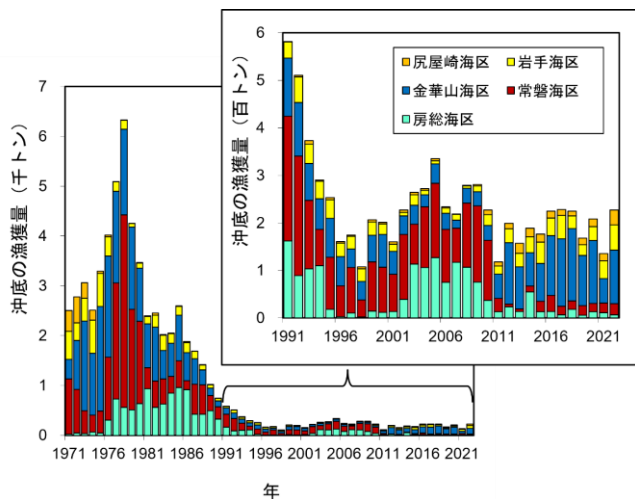


図2 漁獲量の推移

沖底の漁獲量は1978年の6,329トンをピークに1998年には108トンまで減少した。その後は160~335トンの間で推移していたが、2011年以降は118~228トンとやや減少し、2022年は前年より増加して227トンであった。

サメガレイ (太平洋北部) ②

本評価群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって「令和5（2023）年度 漁獲管理規則およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。

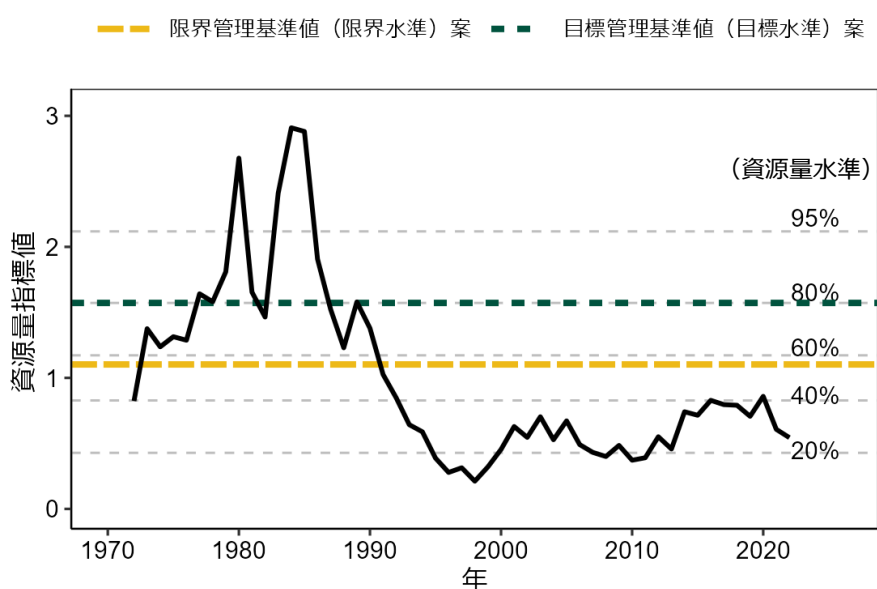


図4 資源量水準および管理基準値案

標準化CPUEを資源量指標値（黒線）とし、資源量水準に基づいて80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）として提案する。

2022年の資源量指標値（0.54）は25.1%水準に相当するため、限界管理基準値案を下回る。

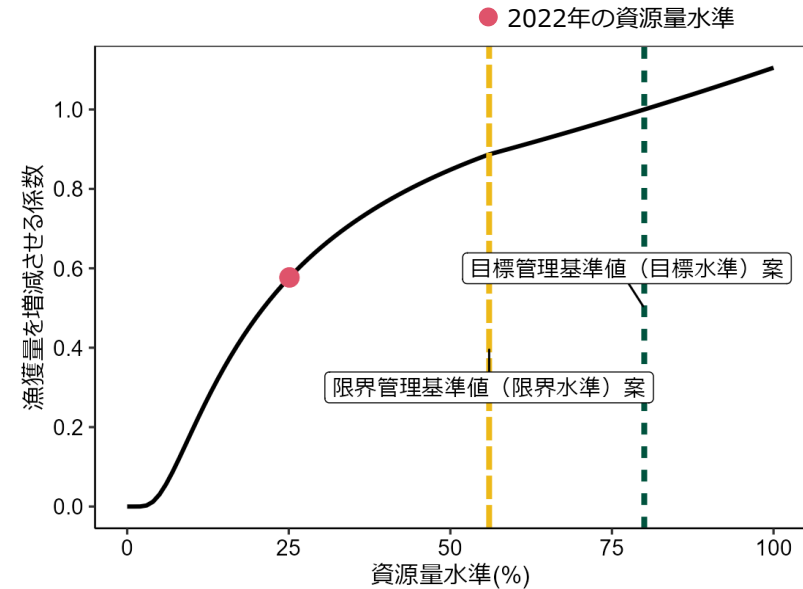


図5 漁獲管理規則案

資源量水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲管理規則を提案する。資源量水準が目標管理基準値案（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2022年）の資源量水準（25.1%）における漁獲量を増減させる係数（赤丸）は0.58である。

サメガレイ (太平洋北部) ③

● 5年平均漁獲量 ● 2024年の算定漁獲量

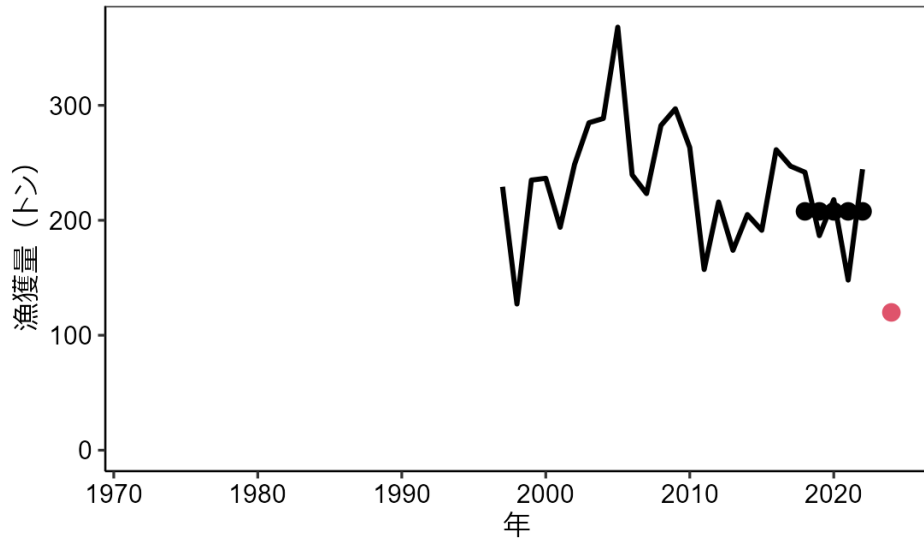


図6 漁獲量の推移と2024年の算定漁獲量

直近5年間（2018～2022年）の平均漁獲量（黒丸、208トン）に2022年の資源量水準から求めた漁獲量を増減させる係数（0.58）を乗じて算出される2024年の算定漁獲量は120トン（赤丸）となる。

図中の漁獲量は全漁業種の漁獲量情報が得られている1997年以降のみを示している。

	資源量水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値 (kg/網)
目標管理基準値 (目標水準) 案	80%	1.00	1.57
限界管理基準値 (限界水準) 案	56%	0.89	1.10
現状の値 (2022年)	25.1%	0.58	0.54

資源量指標値の推移から求めた資源量水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。

2022年の資源量水準は25.1%であることから、2024年の算定漁獲量は120トンと算出される。